

6

ネズミ・生活害虫の対策

指針

No.16

ネズミの対策

ネズミの生息しにくい環境を作りましょう。また、見かけた場合は早めに対策をとりましょう。

ネズミは、ヒトの周りに住む有害動物の代表です。食中毒の原因菌や感染症の病原菌を媒介するだけでなく、家財や電線をかじるなど経済的な被害をもたらします。私たちの身近に見られるネズミは次の3種類で、一年中見られます。

1 クマネズミ

かつてはビル内での生息が多かったのですが、近年では住宅地にも生息範囲を拡大しています。垂直移動や電線渡りが得意で、警戒心が強く防除が難しい種類です。家の中にも営巣します。

2 ドブネズミ

植込みや床下の地面に掘った穴や、下水溝などに生息しています。排水管内部を通過して侵入することもあります。

3 ハツカネズミ

小型で、家の中や物置、畑などに生息しています。



①クマネズミ

頭胴長：15～20cm

出没場所：都心のビル街、住宅

特徴：身軽で運動能力が高く、電線を伝ったり、粗面の壁を駆け上がる

被害：食害、電線・OA機器配線切断



②ドブネズミ

頭胴長：22～26cm

出没場所：下水道、住宅の台所や排水口

特徴：地面に穴を掘り、泳ぎが得意

被害：食害、電線・OA機器配線切断



③ハツカネズミ

頭胴長：6～9cm、小型

出没場所：畑、住宅、ビル街、倉庫

特徴：成長が速く、年間出産数が多い

被害：食害

(写真：(一財)日本環境衛生センター提供)

【住まいにおけるネズミのエサ場と営巣場所】

エサ場になりやすい場所	営巣場所
<ul style="list-style-type: none">・台所、食品保管庫、居間など食べ物があるところ・生ゴミの保管場所・仏壇（供え物や花のある場所）・ベランダ（鉢植えの花）・ペットのエサの置き場所・野鳥のエサ台	<ul style="list-style-type: none">・天井裏、物置、家具の裏・押し入れやタンスの中・壁の中・テレビや冷蔵庫など電気製品の裏 <p>※暖かく、人目に付きにくい場所に紙や布、ビニールなどを集めて巣を作ります。</p>

ネズミと皮膚炎

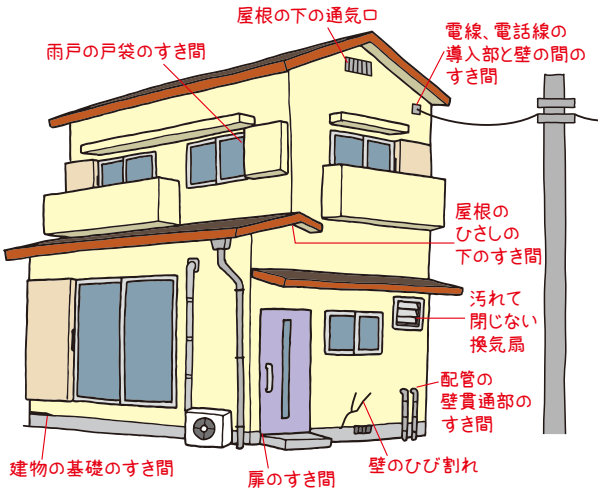
ネズミにはイエダニという種類のダニが寄生して吸血しています。ネズミの巣にも多く生息し、宿主であるネズミが巣からいなくなったり、死んだりして吸血できなくなると、その場所から離れて移動し、人を吸血して激しいかゆみと皮疹を引き起こすことがあります。

チェックポイント 16-□

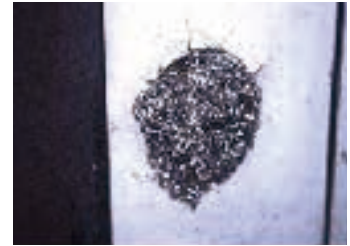
ネズミが生息していませんか。また、生息しにくい環境づくりを日頃から心掛けていますか。

- ① ネズミが侵入できない、エサがない、巣作りできない環境づくりが大切です。

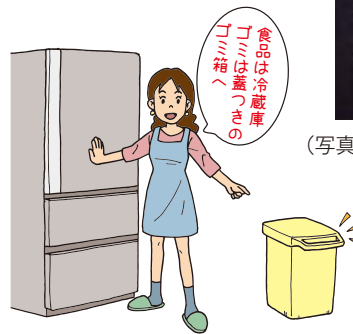
ネズミは自分の頭ほどの穴（12mm以上）があれば通り抜けることができるといわれています。特に、クマネズミの侵入防止には、通路となるようなすき間や壁の穴をふさぐことが有効です。基礎部分にある通風口には金網を取り付けましょう。また、浴室の排水口に目皿が無い場合には目皿を設置しましょう。



【金属たわしによる穴ふさぎ】



(写真：イカリ消毒(株) 谷川力 氏提供)



- ② 特に夜間、屋内外の食品やゴミ箱をきちんと片づけ、ネズミにエサを与えないようにしましょう。食品やペットのエサは密閉容器に入れて保管し、生ゴミはふた付きの容器等に入れるようにしましょう。花や仏壇の供物がエサになることもあります。

- ③ クマネズミは室内に放置してある材料で巣を作ります。押入れやタンス、物置きなどに段ボール、タオル、衣類、紙などが長期間放置してある場合は、時々チェックするようにしましょう。また、巣材になるこれらのものは密閉容器（プラスチックなどの硬い材質のもの）で保管しましょう。

- ④ ネズミの駆除法には、粘着シート（出没する場所に広く置くと効果的）や捕獲器（壁ぎわ等の物陰に置く）、毒餌剤などの方法があります。ドブネズミやクマネズミにはどれも有効ですが、クマネズミには侵入口をふさぐような環境的防除が有効で、粘着シートや毒餌は補助的な手段になります。

粘着シートはネズミがよく通る通路全体に、複数枚配置します。その後、数日間（最低3日間）放置し、その結果を見て配置法を変えるようにしましょう。

【粘着トラップの設置】



(写真：イカリ消毒(株) 谷川力 氏提供)

- ⑤ 毒餌剤は、ネズミが出入りしそうな場所や通路の物陰に少量ずつ分散して置き、減る様子を観察して、よく食べるポイントに多く置きます。食べ始めたら、減った分だけを追加し、食べなくなるまで置いておきます。

室内に食べ物がある状態ではネズミが毒餌剤を食べませんので、室内の食べ物をすべて片付けておく必要があります。また、ペットや子供が誤って食べないように注意し、必ず回収しましょう。

※東京都では「都民のためのねずみ防除読本」を作成しています。ねずみの被害にあわないための日頃の対策や、侵入された場合の対策などをまとめているので、こちらも参考にしてください。

室内にダニが生息しにくい環境を作りましょう。

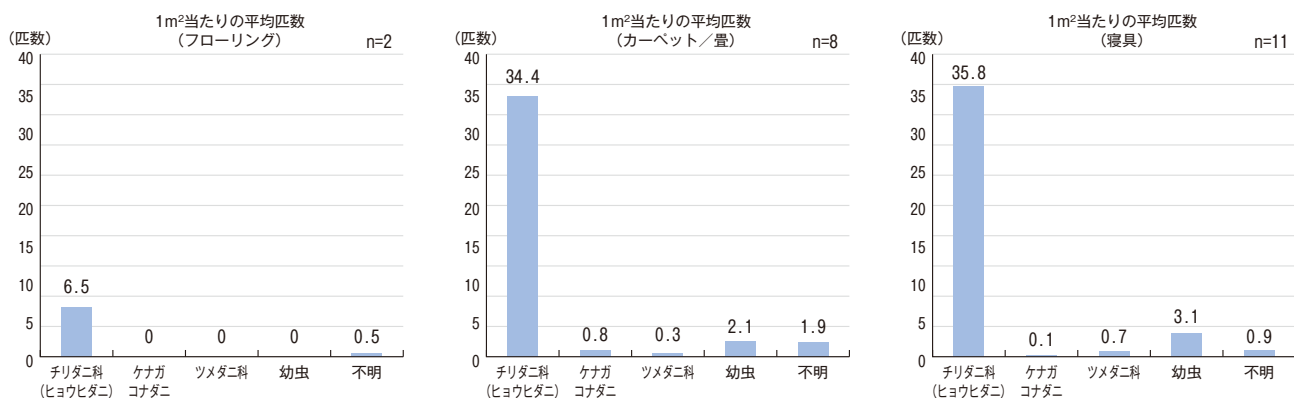
生息数の多少はありますが、ダニは室内に必ず住みついています。室内の床面（特に畳やカーペット）には、室内で最も多く見られるコナヒョウヒダニとヤケヒョウヒダニ（チリダニ）のほか、ツメダニ、コナダニなどのダニが生息しています。

ダニの体長は0.3mm~0.6mmで、普通、肉眼では見えません。また、ネズミがいたり、野鳥が巣を作っていると、これらに寄生して吸血するダニが室内に侵入することがあります。👉指針No.16参照

ダニが生息しやすい環境

- ① 温度：25~30℃ ② 湿度：60%以上 ③ エサ：ヒトのフケ・アカ、カビ、食べこぼし等
- ④ 場所：湿気を適度に含む畳、布団、カーペット等

[居間、寝室のダニ数]



(東京都福祉保健局 平成28年度居住環境詳細調査)

ダニによる被害

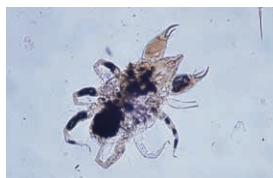
- ・ヒョウヒダニはチリダニ科に属し、アレルギー性の気管支ぜん息やアトピー性皮膚炎などの原因となります。👉指針No.31参照
- ・ツメダニは数が増えると人を刺すことがあり、かゆみを起こします。ヒョウヒダニやチャタテムシ、コナダニなどをエサにします。
- ・コナダニは大発生すると、台所や家具、畳などに粉をまいたように群れを作り動き回るため、不快感を与えます。



ヒョウヒダニ
(写真：田中誠 氏提供)



ヒョウヒダニ (実体顕微鏡)
(写真：東京都健康安全研究センター提供)



ツメダニ
(写真：田中誠 氏提供)



コナダニ
(写真：(一財)日本環境衛生センター提供)

◆粉製品の保管について

- ・戸棚の中などで、室温で長期間保管した粉製品にはコナヒョウヒダニなどが大量に繁殖することがあります。ダニが大量に繁殖した粉製品を使った料理を食べたことによって、呼吸困難などの重篤なアレルギー反応を起した事例が報告されています。特にダニにアレルギーのある人は注意が必要です。
- ・開封後のお好み焼き粉やホットケーキミックスなどの粉製品は、必ず密閉容器に入れ、冷蔵庫内で保管しましょう。

チェックポイント
17-1

室内のダニを駆除するために、寝室や居間などの床は、掃除機を使いこまめに掃除していますか。

床面に掃除機をかけることで、ダニやその糞、抜け殻、破片、繁殖の原因になるエサなどを取り除くことができます。ダニだけでなく、その糞や破片には強いアレルギー性（アレルギーの原因になる性質）があるので、アレルギー対策として行う場合には、ていねいな掃除機がけが必要です。

掃除機がけは毎日行うことが望ましいですが、3日に1回は掃除機がけを行うようにしましょう。

掃除機の性能

掃除機は通常の吸引力（仕事率200W以上）のもので十分ですが、フィルターは高性能のものを使いましょう。掃除機をかけると、排気でホコリが舞いあがります。現在使用している掃除機に長いホースを付けて、本体を屋外に置くと、排気が屋外に排出されるのでより効果的です。

掃除の仕方

ホースの先を床にしっかりとあてて、1m²あたり20秒以上かけてゆっくり動かしてください。畳1畳で、30秒から1分くらいかけます。

チェックポイント
17-2

室内のダニが生息しやすい布団や畳など、ダニの生息場所の湿気ができるだけ少なくなるように工夫していますか。

ダニ生息場所の湿気対策

- ① 天気の良い日は布団を干し、よく乾燥させましょう。梅雨時期などは布団乾燥機を使用するとよいでしょう。
- ② ダニで困っている家庭では、カーペットの使用は控えましょう。特に畳の上にカーペットを敷くと、通風が悪くなり畳が湿るのでやめましょう。畳床の湿度が15%以上になるとダニやカビが発生しやすくなります。
- ③ 天気の良い日は窓を開け、部屋の風通しを良くして、畳など室内の湿気を取り除きましょう。

寝具のアレルゲン対策

アレルギー疾患患者のいる家庭では、特に寝具のアレルゲン対策が重要です。

👉 指針No.31参照



吸血するダニの対策

吸血性のダニが外から室内に迷いこんでこないように注意しましょう。

吸血性のダニは、ネズミや野鳥がいなければ発生しません。なお、野外活動では野生の吸血性ダニへの注意が必要です。

1 イエダニ

ネズミに寄生するダニで、ネズミが死んだり、巣を放棄したときに元の場所から離れて、室内に侵入し、人を刺します。肌の柔らかい部分を多く刺され、かゆみをともなった赤い腫れを起こします。

2 スズメサシダニ、ワクモ

スズメやムクドリなどの野鳥に寄生し、戸袋などに作った巣から這い出して屋内に入り込み吸血し、かゆみを伴った赤い腫れを起こします。なお、被害のほとんどは、ヒナの巣立ち後の5～6月頃に発生します。

3 マダニ類

森林や草原に生息するダニで、人や動物に寄生して吸血します。野鳥などに運ばれて、市街地で発生することもあります。大きさは数mmですが、十分に吸血すると大豆ほどの大きさになります。日本紅斑熱やライム病、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などの感染症を媒介することがあります。



イエダニ

(写真：田中誠 氏提供)



マダニ

(写真：田中誠 氏提供)



チェックポイント
18-1

吸血性のダニに刺されるようなことはありませんか。

ネズミが家に住みついたら、駆除することが大切です。

ネズミの死骸や巣を見つけたら、速やかに処理し、その周辺に殺虫剤（イエダニ用エアゾール剤など）を撒いておきます。☞ 指針No.16参照

チェックポイント
18-2

屋根裏にスズメが巣を作ったり、ムクドリやシジュウカラが戸袋に巣を作ったりしていませんか。

家屋には野鳥に巣を作らせないようにするのが基本ですが、もし作られて被害が発生したときは、巣を他の場所に移し、周辺に殺虫剤（イエダニ用エアゾール剤など）を撒いておきます。ダニ被害のほとんどは、ヒナの巣立ち後に発生します。ヒナがいなくなった巣は取り除き、ゴミとして処分します。



◆野外ではマダニ類に注意しましょう。

マダニ類は室内には生息しませんが、野外での被害が報告されています。ハイキングなどで森林や草原に入る際には、マダニ類に寄生されないよう肌を露出しない服装（長袖、長ズボン）にしましょう。

マダニは長時間（数日～1週間ほど）人体に寄生して吸血しますが、痛みやかゆみはありません。帰宅後に体をチェックしてマダニの有無を調べます。キャンプなどで犬を野山などに連れていった後も注意しましょう。

生活害虫の対策

生活害虫が生息しにくい環境を作りましょう。
また、発生した場合には適切に処理しましょう。

衛生上の害や人体への害を及ぼす害虫

1 ゴキブリ

クロゴキブリ（一般家庭やビル）、チャバネゴキブリ（主にビル、飲食店）が多く見られます。食品に混入して汚染の原因になるほか、精神的不快感を与えます。

2 蚊

家の周りに発生し夜に人を刺すイエカ類（アカイエカ、チカイエカ）、そして庭で見られ昼間から人を刺すヤブカ類（ヒトスジシマカ）が多く見られます。ヒトスジシマカは、建物の周囲の小さな水たまり（雨水ます、水の溜まった容器や空き缶など）から発生し、デング熱やジカウイルス感染症を媒介します。

3 ノミ

ひざから下がよく刺され、強いかゆみをともなった1cm大の赤色の腫れを起こします。またペットを抱いた場合には腕などに集中します。主に猫や犬に付いて室内に持ち込まれ、ペットを離れた後、畳やカーペットのゴミの中で卵を産み、幼虫は約1か月で成虫となります。

4 トコジラミ

夜間吸血することが多く、寝ている人の手や足、首など露出している部分から吸血し、強いかゆみと腫れが生じる場合があります。近年、都会を中心に被害が急増しています。出張などの際に、荷物に潜んで持ちこんでしまうことがあるので注意しましょう。



トコジラミ
(写真：東京都健康安全
研究センター提供)



アタマジラミ

5 ハチの仲間

主にアシナガバチ類とスズメバチ類が問題となります。驚かせたり、イタズラしたりすると刺され、ハチ毒アレルギーの体質の人は全身に症状がでて、アナフィラキシーショックを起こすことがあります。自然界では害虫駆除に活躍する益虫でもあります。

6 その他

ハエ、コバエ、アリガタバチ、イエヒメアリ、チャドクガ、ムカデ、アタマジラミ等の被害があります。



チャドクガ (幼虫)
(写真：田中誠 氏提供)



チャドクガ (成虫)
(写真：田中誠 氏提供)

食品等の害虫

1 メイガの仲間

乾燥した果実やナッツ、粉や穀粉製品、ペットフードなどに広く害を与えます。ノシメダラノメイガが代表種です。

2 シバンムシの仲間

乾燥した植物質（乾麺、ハーブ、ココア、ドライフラワー、畳など）が被害を受けます。幼虫が食品等に被害を与えます。



ノシメダラノメイガの幼虫
(写真：田中誠 氏提供)



タバコシバンムシ
(写真：田中誠 氏提供)

チェックポイント 19-1

生活害虫が発生した場合、適切に駆除していますか。

生活害虫の生態や発生源などを知ることが、適切な対応を行うことにつながります。

除湿や住まいの環境改善、食品や生ゴミの保管方法の改善、清掃の徹底などを行い、虫の住みにくい環境を作ることが防除の基本になります。

・ノミ

畳の表面や敷き合わせの部分、部屋の隅など、丁寧に掃除機をかけ、卵・幼虫・成虫を吸い取ります。カーペットは上げて掃除しましょう。猫などのペットのノミを駆除し、野良猫が床下などに住みつかないように注意しましょう。

・トコジラミ

昼間は室内の狭いすき間（壁と柱の間、ベッドのすき間など）に潜んでおり、夜間に活動します。寝具の周辺など、生息している場所には「血糞」と呼ばれる黒いシミ（^{けっぴん}）が見られます。比較的短期間で数が増え、家中に広がると自分で駆除するのは難しいため、専門業者に駆除を依頼しましょう。

・ハチ

アシナガバチ類の巣は小型の巣であれば、夜間に殺虫剤を吹付ける方法で除去できますが、刺されないよう細心の注意が必要です。スズメバチ類の巣の駆除は危険ですので、専門業者に依頼しましょう。

チェックポイント 19-2

ゴキブリが生息していませんか。また、生息しにくい環境づくりを日頃から心掛けていますか。

ゴキブリの駆除方法

- ① エサになる生ゴミはふた付きの容器やビニール袋等に入れて密閉しましょう。また、食品類は容器に保管しましょう。
- ② 冷蔵庫、ガスレンジの裏側、調理台の引き出し、ゴミ容器、排水トラップ等は定期的に清掃しましょう。
- ③ 毒餌や粘着トラップ（壁ぎわの物陰に置く）などで定期的に駆除をしましょう。



チェックポイント 19-3

蚊の発生しにくい環境づくりを心掛けていますか。

蚊の駆除方法

- ① ボウフラが発生しないよう、側溝は清掃して流れをよくしましょう。
- ② 家の周囲の雨水の溜まるような空き缶や空きビン類、古タイヤなどは片付けましょう。また、散水、防火用の汲み置き水や植木鉢の受け皿などは水を週1回以上捨て、使わない場合は片付けましょう。
- ③ 詰まった雨どいや側溝は清掃を行い、つまりを取り除きましょう。
- ④ 雨水ますや排水ますは定期的に点検し、こまめに清掃を行いましょう。雨水ますや排水ますの幼虫対策には、IGR剤（昆虫成長制御剤）を投入する方法もあります。
- ⑤ 蚊のかくれ家となる風通しの悪いやぶや草むらなどは、定期的な草刈りを行って、日当たりと風通しをよくしましょう。
- ⑥ 窓などに網戸を取り付けて、屋内への蚊の侵入を防ぎましょう。網戸は破れなどがあれば補修しましょう。

※東京都では「施設管理者向け 蚊の発生防止対策」、「蚊をなくして快適な夏を～感染症を媒介する蚊の発生防止対策～」の冊子や、住まいの虫に関するリーフレットを作成していますので、参考にしてください。

